



親だけじゃない 地域の目や手も大きな支え

パルシステム埼玉は親だけでない地域ぐるみの子育てを支援しています。親子ふれあいサロンやママカフェ企画では、子育て中の方向士で交流できる場を提供しています。

子育てサポーター

子育て中のママやパパが親子のふれあい、仲間との出会いを大切に感じられるように、気軽に集まれる交流と仲間づくりの場を提供します。ちょっと先輩ママの組合員である子育てサポーターが、乳幼児を対象とした手遊び、読み聞かせ、スキンシップ、工作などを行います。

今年度は組合員活動施設「ぱる★てらす」の「親子ふれあいサロン」を中心に活動しました。

活動内容 「子サポのママカフェ」

なかなか自分たちの時間が取れない0~2歳のお子さんのママパパを対象に親子同室で手遊びや読み聞かせ、お話ししながら季節の製作をしてほっとひと息つくリフレッシュの時間を提供しています。



離乳食レシピ

食育事業等を行なっている特定非営利活動法人ママサポートと連携し、子育て層への食育の取り組みとして、パルシステムの離乳食商品を使用した離乳食レシピを作成し、定期的にホームページで公開しました。



LPA (ライフプラン・アドバイザー)

LPA (ライフプラン・アドバイザー) は、養成講座を受講して資格を取得した組合員が、保険や社会保障制度など、暮らしのお金についての知識を組合員に広めています。

活動内容 「わかりやすい! 国崎流、防災対策」

危機管理アドバイザーの国崎信江さんを講師に迎え、多様な災害を受けやすい日本に住む私達の具体的な対策方法を学びました。多くの組合員が参加し、防災への意識を高めました。



プチパーティ

組合員が組合員でないお友達と一緒にパルシステムの商品を試食して、組合員の輪を広げるイベントとしてプチパーティを行なっています。「塩レモンDEスペインバル」、「チーズフォンデュ」から選んでもらったメニューを職員が調理します。今年度は職員による新メニューの開発にも力を注ぎました。



食の安全を守るため、 作る人と食べる人をもっと身近に

「食の安全・安心」が今の品質まで高められたのは、生産者、組合員とともに歩んできたからこそといえます。今後も「食育」の大切さを次世代へ伝える活動を推進していきます。

食育サポーター

食育サポーターは、パルシステム埼玉の「食育の定義」や「食育のすすめ」に沿った食を提案し、食育活動を推進する活動組合員です。

地区会やテーマグループなどが主催する料理教室や各種学習会で講師、レシピ提案を行います。

活動内容

機関誌『あす-る』の表紙、裏表紙のレシピ提案と調理も食育サポーターの活動のひとつです。作りやすいレシピで組合員から好評の声が寄せられています。

Zoom企画「手作り肉まんを作ろう!」

食育サポーターを講師に『産直小麦のホットケーキミックス』を使って肉まんを作りました。オンライン開催のため材料は参加者各自で用意し、画面越しに進行状況や、生地の状態を確認しながら調理しました。



PLA (パルシステム・ライフ・アシスタント)

養成講座を受講した組合員が、生産者・メーカーの思いとともに、パルシステム商品に関するさまざまな情報を正確に把握し、組合員の視点で伝えます。

活動内容

「パルシステムブランド新商品を知っちゃおう!」

商品づくりの基本、「7つの約束」など基礎的な説明の後、2020年に組合員の声に応じて発売された『国産小麦もちり食パン』の商品説明とアレンジレシピを紹介しました。ロングセラー商品『こだわり酵母食パン』との比較もあり、学びが多い企画となりました。



商品展示会

商品展示会は、展示や試食を通じてパルシステム商品へのこだわりの製法や安全・安心の取り組みをメーカーから直接聞くことができる貴重な機会です。毎年多くの組合員が来場し交流を図っています。

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止しました。



公開確認会

公開確認会は、組合員が産地を訪れ、農畜産物の生産方法や安全性を直接確認するとともに、生産者と消費者が理解し合い、課題や情報を共有して次につなげていくパルシステム独自の取り組みです。パルシステム埼玉では、これまでにデラウェアの産地「なかむら農園(大阪府)」などで公開確認会を行なっています。



お掃除シートリニューアル

組合員を対象にモニターを募集し、アズマ工業株式会社の『ふんわりお掃除シート』のパッケージデザインについて座談会を行いました。リニューアルコンセプトの「リビングに置いておける」、「カタログ誌面で印象に残る」デザインであることを念頭に3回に渡って、活発な意見が交わされました。

集まった意見を参考にデザインの改良を進め、新パッケージは2021年6月のカタログ誌面に登場予定です。



ねぎが主役だ! レシピコンテスト

旬の季節にねぎを使ったレシピコンテストを開催しました。パルシステムの産直産地である沃土会の生産者が審査委員となり、多数の応募の中から生産者賞とパルシステム埼玉特別賞が決定しました。



『農・彩・土』

埼玉産直協議会『農・彩・土』は、2011年に埼玉県内産直産地の沃土会、南埼玉産直ネットワーク、パルシステム連合会、(株)ジーピーエス、パルシステム埼玉の5団体で生産者と消費者の交流を通じて地産地消をすすめ、県内の農業と環境を守ることを目的に設立しました。



沃土会

深谷市を中心に深谷ねぎをはじめ、野菜全般を生産している、パルシステムの産直産地「沃土会」。自然を大切に微生物を利用した農法で野菜作りに取り組んでいます。



Original product 独自商品

パルシステム埼玉では、独自商品として「産直・共生」「安心・安全」「環境」を柱に地産地消、震災復興商品、交流商品を中心に取り扱いを行なっています。また2020年度は、沃土会(埼玉県)の小松菜を使用した『小松菜しょうゆ漬』を新たに地産地消商品として企画しました。



●ねぎ街 深谷ねぎ油

『農・彩・土』開発協力商品の『ねぎ街 深谷ねぎ油』は、全て国産の材料を用いた手作りの調味料です。



●わくわくボックス

埼玉県深谷市にある産直産地の沃土会の旬野菜が入ったセット商品です。地産地消の取り組みとして県内野菜を限定とした商品として開発しました。



●人参ミックスジュース

人参をまるごと絞った素材のおいしさをごくごく食べる本格ジュースです。『農・彩・土』と連携し商品開発を行いました。



●つや姫 普通精米

山形を代表するブランド米の「つや姫」。出羽三山、ブナの原生林より流れてくる良質な水がおいしいお米を育てます。



●青木農園ふじりんご(小玉)

奥志賀高原の原生林からひいた水と、たっぷりの太陽の光で育ったふじりんごです。



●おとうふ揚げ

高橋徳治商店の1番人気商品で、震災後の復興第1号商品でもあります。

南埼玉産直ネットワーク

さいたま市岩槻区と吉川市でパルシステムの青果(長ねぎ・小松菜・ほうれん草・ルッコラなど)を栽培している生産者グループです。組合員が参加する田んぼ交流では、田植えから稲刈りまで指導していただき、生産者の苦労や収穫の喜びを学んでいます。2020年度も田んぼの生きもの調査は継続し、合計19種類の生き物がみつけられました。



産直講座

パルシステムの産直産地より生産者を迎えて学習会を開催しています。2020年度は「オルター・トレード・ジャパン」や「米沢郷牧場」とオンラインで繋がりました。生産者は商品の魅力や栽培、生産のこだわり、苦労などを伝え、組合員から感謝や励ましの声を直接聞く機会となりました。



次の世代に残すのはどんな地球？ 一人ひとりが環境を守る担い手に

パルシステム埼玉では、CO₂削減、3R運動（リデュース・リユース・リサイクル）、石けん生活のすすめ、産地とともにすすめる環境保全活動などさまざまな場面で人や環境にやさしい社会づくりを目指しています。

グリーンカーテンコンテスト



グリーンカーテンは、日差しを遮ることで室内の温度上昇を防ぎ、エアコンの使用を減らすなど夏の節電・省エネルギー対策に有効です。家庭でのCO₂排出量削減を図ることを目的にグリーンカーテンの普及を呼びかけました。

打ち水

パルシステム埼玉は環境省が推進する「COOL CHOICE」に賛同し、「埼玉打ち水の環」に参加しました。

8月に配送センターと組合員活動施設「ばる★てらす」で役職員が打ち水を実施し、気化熱による冷却効果を実感しました。また、組合員にも実施の呼びかけを行いました。



石けん

石けん生活のきっかけとして「きれい！をずっと石けんアンバサダー」に取り組みました。「YUMMYUMベビーソープ」「こんせんくん石けん」を使用し、アンケートに回答してもらいました。アンバサダーの声は環境や家族に優しい石けんの普及を目指して、ホームページで公開しています。



ウォータースタンド

プラスチック問題研究の第一人者である高田秀重教授が所属する東京農工大学の「農工大プラスチック削減5Rキャンパス」を参考にマイボトル用浄水給水機ウォータースタンドの設置を全事業所に広げました。役職員や委託協力会社社員のペットボトル削減意識の向上とマイボトル使用を推進しました。



里山保全企画

北本自然観察公園で、自然学習指導員の指導のもと「ススキを使ってホウキ作り!!!」を開催しました。ススキは定期的に刈り取らないと新たな芽が生えてこなくなってしまう。環境保全活動として施設内で刈り取ったススキを使って思いのホウキを作りました。



大豆トラスト運動

大豆トラスト運動は、組合員が一定の区画にお金を出して国産大豆を作り、耕作放棄地をよみがえらせるための運動です。パルシステム埼玉では、2005年に児玉郡神川町で大豆トラスト運動をスタートさせ、毎年神川農業グループと株式会社ヤマキの協力を得ながら有機栽培で大豆作りを行なっています。



環境方針

生活協同組合パルシステム埼玉は、理念・ビジョンに基づき、暮らしや社会の問題を解決する事業を地域の中に広げ、食料品・日用品を中心とした商品の供給、及び共済、葬祭などのサービスを組合員等に提供しています。

私たちは、これらの事業活動による環境影響の大きな項目について、技術的かつ経済的に可能な限りの範囲で、環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境負荷の低減・汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

また、環境関連の法律、規制、条例、パルシステム埼玉が受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。

- ① 事業所における節電や環境配慮設備の導入により、CO₂の排出量削減に取り組みます。
- ② 環境に配慮した商品の普及とリユース・リサイクル品の回収に組合員とともに取り組みます。
- ③ 一人ひとりがくらしの中で身近にできる環境活動を応援します。
- ④ 産直生産者との交流を軸に、環境保全型農業をすすめます。
- ⑤ 地産地消の視点から、県内産地の商品の取り扱いを増やします。
- ⑥ 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。

① パルシステム事業におけるCO₂排出量

	2018年度	2019年度	2020年度
電気由来	372,843kg	348,556kg	1,235,831kg
燃料由来	1,369,819kg	1,422,898kg	1,406,812kg
ガス由来	989kg	1,049kg	1,140kg
排出量計	1,743,651kg	1,772,503kg	2,643,784kg

・2020年度から組合員活動施設「ばる★てらす」のCO₂排出量を統合しています。

② 電気・燃料・ガス使用量



③ リユース・リサイクル回収状況

単位: kg(びんは本数)

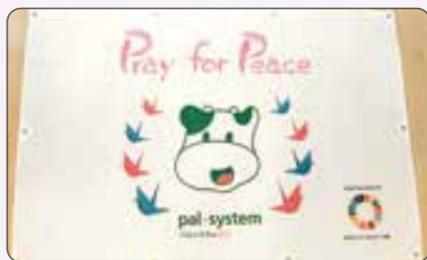
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2019年比
米袋	5,279	5,615	5,905	6,047	5,277	87%
注文用紙	50,446	47,642	46,040	45,949	41,108	89%
商品カタログ	1,870,390	1,905,697	1,998,127	1,928,903	1,666,645	86%
資源プラスチック	39,951	43,106	42,896	41,487	43,348	104%
紙パック	71,708	71,336	68,452	62,828	62,921	100%
たまごパック	85,941	85,475	83,987	80,227	87,099	109%
ペットボトル	12,420	16,445	20,303	22,270	30,150	135%
ABパック・ヨーグルトカップ	11,704	11,439	11,639	12,377	12,089	98%
お料理セットトレイ	3,734	5,270	8,440	10,937	10,951	100%
リユースびん	314,908	315,558	306,749	309,506	339,996	110%



過去に向き合い これからの平和を考える

2020ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ

1978年から被爆体験の継承や核兵器のない世界を求める思いを共有する場として開催されてきた「ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」。8月4日(火)～5日(水)はヒロシマから6企画、8月7日(金)～8日(土)はナガサキから6企画をオンラインで行い、全国から100生協のべ6,000人が参加しました。パルシステム埼玉も26名の参加申し込みがありました。また、平和活動に関する写真を特設ポータルサイトに投稿し掲載されました。



オイスカ「フィリピンの子どもたちに楽器を贈ろう！」

毎年3月末～4月初旬にかけ、組合員に使わなくなったリコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器と柔道着の寄付を呼びかけています。提供された楽器や柔道着は国際NGOオイスカ茨城推進協議会に引き渡し、ボランティアによる清掃、消毒作業後、船積みされてフィリピン（一部はスリランカ）に運ばれます。現地の小学校では贈られた楽器を使ってコンサートを開き、柔道着はネグロス島の大学での授業に役立っています。今年度は1,127点の楽器と118組の柔道着が寄せられました。



尊さを学ぶ

パルシステム埼玉は「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」の理念のもと、命を大切に、誰もがお互いを認め合い安心してらせる社会をつくるために平和活動をすすめます。

日韓子ども交流

2000年に始まった韓国プルンドゥレ生活協同組合との子ども交流は1年ごとにお互いの国を訪問し、交流を深めています。これまでにのべ200人以上の子どもたちが参加し、日本と韓国の歴史や文化の違いを知り、尊重し合える関係を築いてきました。コロナ禍で2020年度の交流はできませんでしたが再開に向けてオンラインで韓国の役員と協議を進めました。



ヒバクシャ国際署名

パルシステムグループ全体で「被爆者が訴える核兵器廃絶にむけた国際署名」(ヒバクシャ国際署名)に取り組みました。この署名は、2016年の国連総会で、2017年度からの「核兵器禁止条約」交渉会議が採択されたことで、平均年齢80歳を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者が世界に賛同を呼びかけたものです。2017年～2020年度の累計ではパルシステムグループで24万8,216筆、パルシステム埼玉で3万8,518筆が寄せられました。署名は2021年1月8日に国連本部へ目録がメールで提出されました。



平和募金

パルシステム埼玉では、戦争や貧しさの中にくらす子どもと女性のために国際支援を行なっているNPOやNGOと協力して毎年「パルシステム埼玉平和募金」に取り組んでいます。2020年度も組合員に募金を呼びかけ、現金とポイントカンパを合わせて350万3,598円が集まりました。

支援団体
特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会、特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン、特定非営利活動法人APLA、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会



CLOSE UP

ピースウィーク

パルシステム埼玉では、戦後75年企画「ピースウィーク」と題して、ホームページで埼玉県内の平和を願う施設、書籍、ヒロシマ・ナガサキの被爆体験を紹介しました。

ハンガー・フリー・ワールド「書損じハガキ回収キャンペーン」

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドの書損じハガキ回収キャンペーンに賛同し、ご家庭で眠っているハガキや切手、商品券などの回収を呼びかけています。回収物はボランティアによる仕分け後に換金され、アジアやアフリカの飢餓をなくすための活動に役立てられています。2019年12月～2020年5月の回収額は462万2,771円に達しました。



人材育成

教育プログラム



パルカレッジ

教育研修カリキュラム「パルカレッジ」にのべ49人が参加し、「商品知識」や「生協の役割」など階層ごとに必要な知識を習得しました。



産地研修

毎年県内産地の米作り体験や遠隔産地の田んぼ交流などの研修を実施しています。(※2020年度は開催なし)



キャリア形成教育

資格取得促進・ジョブローテーション・職員提案制度などを体系化しキャリア形成教育と位置付け、組織の活性化につなげていきます。

多様な働き方実践企業

2020年4月、従業員の仕事と子育て等の両立を支援し、男女ともにいきいきと働ける職場環境づくりをしている組織として「埼玉県多様な働き方実践企業」に認定されました。



内定者の職場体験

11月に蕨センターで内定者2名を迎え職場体験を行いました。実際に配達トラックに同乗し、組合員と対峙することで入社後の業務へつながることを期待します。



その他

女性の活躍推進

すべての職員が活躍できる職場づくりを目指し、自主行動計画を策定しています。新卒採用を積極的に進め、正職員の女性比率の向上に取り組んでいます。

女性正職員比率

2018年度	2019年度	2020年度
20.6%	17.5%	15.6%

障がい者雇用

埼玉県障害者雇用優良事業所の認証更新

各事業所で障がい者雇用を促進し、優良事業所として継続認証されています。

障がい者雇用率

2018年度	2019年度	2020年度
2.62%	3.02%	3.61%



内部統制

コンプライアンスについて

”コンプライアンス”とは、「法令の主旨、精神、企業倫理に従った行動」を指します。組合員数20万人を超える生活協同組合として、コンプライアンス体制の構築は社会的責任のひとつです。パルシステム埼玉では2014年2月に、コンプライアンス規程を制定し、全役職員が業務遂行にあたり、行動規範(各職員が常時携帯)に従い、関係法令、定款、規程等を遵守し日常業務を効率的かつ効果的に遂行することを明記しています。

コンプライアンスに対する違反行為は、社会的な影響が大きいので、日常のリスク回避行動は、欠かせません。各部門、事業所においては、月次点検を通じて、自らの職場におけるコンプライアンス状況を振り返る取り組みを行なっています。さらに、役職員に対する関連教育の実施、年1回の総合内部監査、全職員を対象にした関連アンケート、職員への聞き取り調査などを通じて、コンプライアンス体制の維持・向上に努めています。

情報セキュリティ及び個人情報保護について

パルシステム連合会では、パルシステム埼玉をはじめとする会員生協の情報資産の管理・運用を含めた総合的な情報セキュリティ体制を構築しています。その中で「パルシステム連合会・個人情報保護・情報セキュリティ委員会」を会員団体に構成しています。この委員会では個人情報及び情報システムに関する事故を未然に防止する対策を講じていると同時に運用マニュアルの監修も行なっています。当組合では、「個人情報保護方針」及び諸規程を定め、役職員に周知するとともに、関連教育の実施等を通じて、適切な個人情報の保護管理に努めています。

リスク管理について

当組合では、当組合の事業・活動におけるリスクを全て洗い出し、これらが顕在化しないよう、また顕在化した際でも被害を最小限にとどめるために、さまざまな規程やこれらに基づいて「危機管理委員会」や「内部統制委員会」を設置・開催し、さらには業務ごとに具体的な手順を定めています。その上で、全ての部門・事業所において実施している内部統制の月次点検や年1回の監査を通じてチェックを行い、適宜改善を図っています。

パルシステム埼玉の広報



機関誌『あすーる』

組合員とパルシステム埼玉をつなぐ月刊誌として、組合員に今伝えたいことを編集会議で決定し、作成しています。



情報紙『あすーるポケット』

パルシステム埼玉、組合員、その他の団体が運営する企画について参加を呼びかけるために発行しています。



ホームページ

事業や組合員活動の報告、あすーるポケットのイベント情報など最新情報を発信しています。



パルシステムの取り組み

10のパルシステムが力を合わせ、関東近郊の1都11県の生活を支えます。



パルシステムは、1都11県にある10の生協で構成されるグループです。「安全で安心な商品」を「ご自宅までお届け」する供給事業を中心に、健康、環境などの分野で組合員の暮らしを支えます。

パルシステム生活協同組合連合会
pal*system



パルシステム生活協同組合連合会とは

パルシステム生活協同組合連合会は、首都圏を中心とした生協で構成する連合会組織でパルシステム埼玉もその会員生協です。パルシステムグループ（会員生協と子会社）は、食を中心とした商品の供給事業や共済・保険事業、福祉事業などを展開しています。



ほんもの実感

私たちの「選ぶ」が変える3つの行動テーマ

Action 1
「ほんもの」の価値を知り、一人ひとりが選択しよう！

Action 2
「ほんもの」をつくる生産者・メーカーと会おう、話そう、伝えよう！

Action 3
「ほんもの」をおいしくムダなく使いこなそう！



品質保証

パルシステムでは、組合員に届く商品が約束を守っているか、確かな品質であるかを確認するために「仕様書管理」「商品検査」「工場点検」など徹底した品質管理を行っています。組合員からの申し出など問題が起きた際には、原因調査の上、再発防止に向けて産地やメーカーと一緒に改善に取り組んでいます。



7つの約束

「食」と「農」をつなぎ、いのちの力があふれる社会を、次の世代にきちんと手渡したい。その思いを込めてパルシステムは、次の「7つの約束」の実現を目指して商品づくりをすすめます。

- ① 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
- ② 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
- ③ 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
- ④ 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
- ⑤ 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
- ⑥ 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
- ⑦ 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

生活用品への6つの想い

パルシステムが考える確かな品質の商品で、組合員の心地よい暮らしを応援します。「6つの想い」を大切にして、商品づくりをすすめます。

- ① 商品の成分や材質の基準を設けて、安心して安全な商品をお届けします。
- ② 森林を育み、「森」「川」「海」の環境を守り、石けん運動を広めます。
- ③ 再生原料の利用を推進し、限りある資源を有効に活用します。
- ④ 文化や技の継承・発展、国産のものづくりを応援します。
- ⑤ 「もの」を長く使い続ける良さを伝えます。
- ⑥ 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

あゆみ

- 1951 蕨生協としてスタート
- 1971 再建総会
- 1975 南埼玉生活協同組合わかばと改称
- 1977 首都圏コープ事業連合(現在のパルシステム連合会)に参加
- 1984 さきたまグリーン生協設立
- 1992 わかば生協、個別宅配事業開始
- 1994 わかば生協とさきたまグリーン生協が合併し、ドゥコープとしてスタート
- 1996 ソーラー電池照明、LPG 車の導入
- 1997 BMW システムによる中水施設を建設
いきいきネットワーク(家事援助活動)がスタート
- 1998 屋上緑化など環境に配慮したセンターとして白岡センター移転新築
- 1999 「パルシステム埼玉市民活動支援金」を開始
- 2000 ISO14001 の認証取得
韓国「プルンドゥレ生活協同組合」(仁川市)との「日韓子ども交流」を開始
- 2001 所沢センターを三芳町に移転し、三芳センターに改称
- 2006 雨水利用設備や託児所などを備えた草加センターを新たに開所
- 2008 食料自給率向上に向け「パルシステム 100 万人の食づくり」運動スタート
- 2009 太陽光発電システムを導入した川越センターを新たに開所
- 2011 埼玉県勤労者生活協同組合からパルシステム事業を譲受、パルシステム埼玉に名称変更
パルシステム埼玉蕨センターを建替え(太陽光発電、BMW システムを導入)
- 2012 パルシステムサービスセンター(略称:P S C)で組合員の声の一元管理スタート
- 2015 「パルシステム埼玉東日本大震災復興支援助成金」を開始
- 2016 組合員活動施設「ぱる★てらす」がオープン
発電事業を担う(株)パルシステム発電を設立
- 2018 消費生活協同組合制定 70 周年記念 厚生労働大臣表彰を受賞
障害者雇用優良事業所及び高齢者雇用優良事業所を対象とした埼玉県知事表彰を受賞
- 2019 埼玉県内企業初となる「ウッドスタート宣言」を締結
ホームページをリニューアルし、スマートフォン対応に変更
- 2020 東松山センターが移設し、熊谷センターが稼働を開始
消費者支援功労者表彰(ベストサポーター章)を受章
埼玉県多様な働き方実践企業に認定
埼玉県健康経営実践事業所に認定

本部・蕨センター

〒335-0005 埼玉県蕨市錦町 2-10-4
TEL.048-432-7093 (代表電話)
月～金 / 9:00～17:30

CSR REPORT 2020

